

高校生と共作シリーズ②

# あかつきのロールケーキ

作・中嶋悠紀子

【登場人物】(男3・女1) または (男3・女2)

【1】

クマオ

長男

テツ／お父さん

次男

シヨウ／おじいちゃん

三男

町子／マチコ

祖母／学園のマドンナ

※町子とマチコは同一人物が演じていても良いし、二人で分けて演じてても良い。

【舞台】

とある郊外に位置する一軒家。

この街はかつて桃畑が広がり、「あかつき」というブランド桃の生産で栄えたが、現在はほとんどの農家がそれらを畳み、空いた土地は使い手のない駐車場になってしまっている。

祖母、町子の家の庭にも、かつては美しい桃の木がたくさん実を付けたが、現在は荒地と化してしまっている。

クマオ

：俺なりにやってきましたつもりなんだよ。

シヨウ

：うん。

クマオ

そりゃあ、母ちゃんのようにには上手くはないかもしれないけれど、それなりに我慢もしてきた。父さんの鉄拳だって、受けるのはいつも兄ちゃんだ。だって兄ちゃんだから。盾にもなつてやらないと。

シヨウ

：うん。

クマオ

それなのにさあ。

シヨウ

だって…。

クマオ

自分以外の人間は他者だ。他者と上手く共存していくためにはルールがいる。

シヨウ

僕たち兄弟だよ。

クマオ

他者だ。自分以外は皆そう考えるんだ。

シヨウ

同じ腹から生まれたんじゃない。

クマオ

どうだかな。

シヨウ

えっ。

クマオ

お前、桃から生まれたんだよ。

シヨウ え、桃？

クマオ 桃太郎なんだよ。

シヨウ そうだったのか…道理で。

クマオ んなわけねえだろ。

シヨウ だっておかしいじゃん。僕だけみんなと違つてさ。

クマオ …シヨウ、今日は何の日だ。

シヨウ 僕の十回目の誕生日。

クマオ そうだ。だから今日は楽しい一日であるべきなんだ。

シヨウ うん。

クマオ 皆で百点満点の時間を過ごすためには、互いに約束事を守らなきゃ

ならない。相手を思いやること。つまり、人が嫌がることをしないと

いうことだ。

シヨウ いつも母ちゃんが言ってる。

クマオ 兄ちゃんは、守つて来たつもりだ。

シヨウ 僕だつて。

クマオ じゃあこの有様は何だ。

クマオとシヨウは、床に倒れたテツを見る。

シヨウ だつて、ばあちゃんが好きなを選んでいいって言つたから。

クマオ だからつてこれはないだろう。文脈を読めつて。

シヨウ 文脈つて何だよ。

クマオ これまでの流れのことだよ。

シヨウ 四年生では習わないよ。

クマオ みんな、桃が、嫌いだろう。

シヨウ みんな…。

クマオ 家族、みんな。嫌いなんてもんじゃない。ダメだ。ダメダメなんだよ。

それなのにこんなもの買つてきて。

シヨウ 桃のロールケーキ…。

クマオ こいつがつまみ食いしなければ、謎の一家心中を遂げてしまう

ところだつたんだぞ。

テツ うう…。

クマオ テツ、大丈夫か…!?

テツ 殷周秦漢三国晋…南北朝隋唐五代…宋元明清中華民国…。

シヨウ 何かぶつぶつ言ってるよ。

クマオ 息はあるようだ。

シヨウ 良かった…。

クマオ 良いことあるもんか。こうなるつて知つてお前はさあ。

シヨウ 知つてたけど…見たのは初めてだ。

クマオ みんな慎重に暮らしてきたんだよ。

町子 シヨウちゃん、ケーキ買つて来たの？

シヨウ う、うん。

町子 どんなケーキ買ったの。おばあちゃんに見せて。

クマオ うわーっ！ダメダメ！

町子 どうして。

クマオ その…ばーちゃんをビックリさせようと思つてさ！

町子 シヨウちゃんの誕生日よ？クマオつたら変な子ね。

クマオ へへへそうかな。

シヨウ よっ！変わりモン！

クマオ へへへー変わりモンだぞー。(シヨウを睨みながら変わりモンっぽい

動きをする。)

町子 唐揚げ揚がったらすぐ始めるから。ローソク刺しておいてね。

シヨウ はーい。

町子 あら、テツ、寝てるの？

クマオ　　そ、そうなんだよー。なんかプールで1キロくらい泳がされたらしくてさー。

町子　　テツは1キロも泳げるの。偉いのねえ。あ、これ巻き寿司とお稲荷さん、一緒に並べといて。

クマオ　　ありがとう。

町子　　ふふふ。

クマオ　　どうしたの。

町子　　こうして遊びに来てくれる日が来るなんてね。

クマオ　　新幹線乗るの、意外に簡単だったよ。

シヨウ　　うそつけー。乗り換えのホームが分からなくなって狼狽えてたじゃん。

町子　　これからはいつでも来れるね。

シヨウ　　うん。

町子　　あ、唐揚げ真ん中に置くから。ケーキ邪魔になるから冷蔵庫に入れてとこうか。かして。

クマオ　　いやいやいや僕が入れておくよ。

町子　　そう？じゃあお願いね。(去る)

クマオ　　：お前優しくないよ、こんなことして。

シヨウ　　でも、僕の誕生日だよ。

クマオ　　誕生日だったら何してもいいのよ。

シヨウ　　食べたいケーキ選んで何が悪いんだよ。

クマオ　　皆が困ってるだろうが。

シヨウ　　僕だって困ってるじゃないか。優しくないのはどっちだよ。

クマオ　　お前、やっぱりうちの子じゃないんだよ。桃太郎だ。桃から生まれた

桃太郎だっ。

シヨウ　　えっ。

クマオ　　母さんが川に洗濯に出掛けた時に、拾われたんだよ。

シヨウ　　がーん。

クマオ　　お情けで置いてもらってるんだから、せめてこの家のルールに従えよ。

シヨウ　　そんなあ。

クマオ　　桃は禁止。今からこのロールケーキは、ゴミ箱にGOだ。

シヨウ　　嫌だっ。

クマオ　　じゃあ今からケーキ屋に戻っていちごに変えて貰って来い！

シヨウ　　それも嫌だっ。

クマオ　　シヨウ！

シヨウ　　僕は桃が食べたいんだっ！そんなに嫌なら、外側のスポンジだけ剥がして食っとけよ！

クマオ　　兄ちゃんだぞ。兄ちゃんに向かってその言い方はなんだ。

シヨウ　　兄ちゃんがそんなに偉いのかよ。

クマオ　　お前よりは偉い。新幹線にも乗れる。

シヨウ　　兄ちゃんなんか鬼だ！いつも僕から好きなものを奪うんだ。そうだ、鬼退治してやる、どうせ僕は桃太郎なんだからな！

桃太郎と鬼の戦い。

町子が戻って来る。

町子　　コラ！喧嘩するんじゃない！

桃のケーキが床に転がる。

クマオ・シヨウ　　あ…。

町子　　シヨウちゃん、これ何？

シヨウ　　…。

町子 桃のケーキ買ったの？

シヨウ

…。

町子 桃のケーキなんか食べる子は、うちの孫じゃない。桃から生まれた桃太郎じゃ。桃太郎なんか、鬼じや。悪魔じや。鬼ヶ島で退治されたらいいわ。(お尻を打つ)

シヨウ 痛いよ。ばあちゃん、やめてよ。

町子 外で反省しなさい。(庭に放り出す)

シヨウ 僕の誕生日は？

町子 その辺にいる雀にでも頼んだらいいわ。歌くらいは歌ってくれるでしょうよ。

シヨウ 雀はハッピーバースデーって言わないよ！

町子 知らん。

シヨウ ばーちゃんなんて、いなくなっちゃえばいいんだ！

クマオ うっ…。

町子 クマオ、大丈夫？

クマオ 桃の匂いが…。

町子 向こうの部屋で横になりましょう。

町子と共に、クマオ去る。

シヨウ 帰る。ばーちゃんの家なんか、二度と来るもんか。

シヨウ、出て行く。

テツ あれ、生きてる…痺れもない…。

テツ、ゆつくりと起き上がる。

テツ

ばあちゃん、ばあちゃん。

間

テツ

お腹空いた…。

テツは床に転がっているケーキをつまんで、口に入れる。

テツ

ああもったいない。コトブキヤのロールケーキ。スポンジはしっとり、生クリームは甘すぎずもたつかず、最高なんだぜ。

中心にある桃も、思い切って口に運ぶ。

テツ

食べられる…！

## 【2】

悪夢のような誕生日会から数年後。

シヨウ

金銀財宝、見つけたぞおおおおお！

テツ

わわわ、ドーしたドーした。

クマオ

お遣いもう終わったのか？

シヨウはテーブルの上に雑誌を叩き置く。

シヨウ ホットキヤットプレスだ。

クマオ・テツ ホットキヤットプレス！

クマオ 大学生の恋愛事情が赤裸々に綴られているとかいうあの。

テツ さくらんぼ男子たちに大人の階段を駆け足で登らせてしまおうとかい  
うあの。

クマオ・テツ 男の教典！

クマオ お前、そいつをどこで…。

シヨウ 河原で拾ったのさ。

テツ どうりでパリパリしてる。

クマオ いや、でも中は無事だ。

シヨウ 控えい控えい！

クマオ・テツ ははーっ。

シヨウ お主たち、これが見たいか。

クマオ・テツ ゴクリ。

シヨウ もしこれが見たければ、来週のジャンプは兄ちゃんが買って…あつ。

クマオ・テツ (早速読んでいる) うひょーい。

シヨウ ちよつとー！

クマオ お前にはまだ早い。

町子 シヨウ、帰ったの？

三人 わーっ！(ホットキヤットプレスを隠す)

町子 どうしたの？

シヨウ うん、買い物終わったよ。

町子 終わったなら買った物持って来てくれないと。お魚はすぐに傷  
んじゃうんだから。

シヨウ ごめんごめん。(買い物袋を渡す)

町子 それから？

シヨウ あ、お釣り…。

町子 ばあちゃんはそういうこと、忘れないんだからね。

シヨウ スイマセン…。

町子 クマオの邪魔するんじゃないわよ。この夏が正念場なんだから。(去  
る)

三人 はーい…。

テツ 兄ちゃんどの子が好き？

クマオ そうだなあ、俺は…。

テツ 俺この子。ひまわりちゃん。

クマオ えっ。

テツ だめだよ、ひまわりちゃんは僕がお守りにするんだから。

テツ はあ？

シヨウ だって、憧れの人に…に…似てるんだもん。

テツ え、どこがお尻がおっぱいが？

シヨウ 顔に決まってるじゃないか！

テツ シヨウは顔で選ぶ派か！

テツ 兄は？

シヨウ 俺は、くるぶしだな。

テツ くるぶし！？

シヨウ 骨がポコッと出てるのとか見るとさー、ゾクゾクするんだよね。

テツ 意外と変態なんだね。

シヨウ 至ってノーマルだよ。

テツ ひまわりちゃんも、くるぶしがいいの？

シヨウ 似てるんだよね。…いいなって思ってる先輩に…。

テツ 兄も？え、誰？誰？

クマオ 兄は、どの子が好みー？

シヨウ 俺も…ひまわりちゃんかな…。

テツ 血は争えないねー。

シヨウ 兄ちゃんは何派？

クマオ 何派とかねーよ。…滲み出る優しさとか…雰囲気とか？

シヨウ 写真じゃわかんないよー。

クマオ 分かるよ同じクラスなんだから。

テツ・シヨウ え…。

クマオ あ…。

テツ え、今何て？同じクラスって言った？

クマオ 言っていない。

テツ 言ったよね。同じクラスって言ったよね。

クマオ 言っていない。言うわけがない。

テツ 同じ3年B組で、ひまわりちゃん似の女子と言えば…。

シヨウ マチコ先輩！

クマオ・テツ え…。

シヨウ 僕が好きなのは、高等部3年B組出席番号十七番、マチコ先輩だから。だからこのひまわりちゃんは、僕のもの。

テツ 俺だってマチコ先輩が好きだー！

クマオ・シヨウ なっ！

シヨウ 僕が先に言ったんだぞ。

テツ そんなの関係あるかよ。

シヨウ じゃあ僕が先に告白する。

テツ 俺の方がお兄ちゃんなんだぞ！

シヨウ 末っ子は気遣い出来ないんだよ！

テツとシヨウは電話を取り合って揉み合う。

テツ こら、急に掛けると迷惑だろう。

シヨウ 迷惑掛けないためにアポ取りするんだよ。

テツ アポって何だよ営業か！

シヨウ あ！番号知らないや。

テツ 何だよもうー。

シヨウ クマ兄なら知ってるんじゃない。

テツとシヨウはクマオを見る。

クマオ 失礼じゃないか。こんな…白い水着のひまわりちゃん、マチコさんを想像するなんて。

シヨウ クマ兄だって喜んで見てたじゃないか。

テツ そもそもクマ兄が口走ったんだよ。

クマオ 俺は一言も言っていないね。

テツ 言ったよ同じクラスだって。

クマオ マチコさんの名前は一言も出してない。想像すらしていない。頭を掠めてもない。

シヨウ 嘘だあー。

テツ じゃあ誰なんだよう。

クマオ マチコさんなんか、全然興味ないよ。

テツ 亜麻色の長い髪。

シヨウ 胸に白い花束。

テツ バラ色の微笑み。

シヨウ 学園のマドンナ、マチコ先輩。

テツ・シヨウ 嗚呼…。

クマオ マチコさんなんか、興味ないよ。

テツ じゃあ、彼女を超える彼女って、一体誰なんだい！

シヨウ 誰なんだい！

クマオ …ばーちゃんかな。

テツ・シヨウ おいおいおいおい。

クマオ ばーちゃんだって、名前「町子」じゃん。町子ばーちゃん。

シヨウ クマ兄そりやないぜー。

クマオ ばーちゃんの昔の写真見た事あるか？そりやーどえれー美人だったんだぞー。

テツ はいそういうのなしー。

シヨウ 素直に言っちゃえよ。

クマオ マチコさんじゃない。マチコさんじゃないんだからな、断じて。

マチコ じゃあどなた？

テツ・シヨウ うわーお！（ホットキヤットプレスを隠す）

クマオ マチコさん。

シヨウ どうしてここに！？

マチコ 親戚の引越しのお手伝いで。そしたらシヨウ君が歩いてるんだもの。ビックリしちゃった。

シヨウ み、見たんですか？

マチコ 河原らへんを歩いてたよね。

シヨウ ハ、ハイ…。すみません…。

マチコ これ、たくさん頂いたから、お裾分け。

クマオ 桃じゃん…。

マチコ みんなで食べてね。

シヨウ ズッキューン！

マチコ えっ。

シヨウ ありがとうございやーす！

テツ シヨウ！

シヨウ 僕、桃が好物なんですすう！

テツ あ、ずるいぞ！

マチコ そうなの？良かった！

シヨウ

そしてマチコ先輩も大好きです！僕の気持ち、聞いてください。「すももももも、マチコ先輩が好き」

テツ 意味わかんないよ。

シヨウは思いの丈をギターで歌う。

テツ すももももも出てこないじゃん！

マチコ 素敵ねー。

テツ マチコ先輩、僕のことも見てください。

マチコ えっ…。

テツ 僕の、唇を見て…。

マチコ テツ君…。

テツもマチコへの思いを口笛で表現する。かなりの腕前で。

マチコ 凄…。

テツとシヨウ「さあ、どうする？」と言わんばかりにクマオを見る。

クマオ マチコさん、僕は…。(桃を齧ろうとする)

シヨウ クマ兄が桃を…やっぱりそうだったんだ。

テツ クマ兄無理しなくていいんだよ。

クマオ 僕は…。

シヨウ マチコさん僕と付き合ってください。

テツ いや、僕と付き合ってください。

クマオ 僕と…。



クマオは目を強く瞑り、大きな口を開けて桃の表面に歯を立てる。が、そのまま倒れてしまう。

マチコ クマオ君！

テツ・シヨウ (小声で) 勝った…。

マチコ 私、クマオ君と付き合います。

テツ・シヨウ どえええええ！？

テツ この流れで！？

シヨウ 桃食べてないよ。男気見せてないよ！

マチコ だって、この人私がいないとダメそうだから。

音楽

大人になった二人は海辺の小さなチャペルで結婚式を挙げる。

### 【3】

結婚式から数日後。

テツ …え、欠航？…そうか、わかった。気を付けて帰って来て。…うん、こっちは無事着いた。え、シヨウ？あいつはもう出掛けたよ。

…うん、婆ちゃんは元気。母さん仕事は？…そうか、良かったね。

そりゃあ、こういう時くらいは。こっちは大丈夫だから。また空港着いたら連絡して。うん…それじゃあ。(電話を切る)

町子、車椅子に乗って現れる。

町子 お母さん？

帰りの飛行機が欠航になったんだって。

テツ あら。向こうはお天気悪いの？

航空会社のストライキだって。向こうは労働者がしっかり権利を主張するんだねえ。日本じゃありえない。

町子 勤勉で真面目な国だからね。

身内の祝い事ですらこんなに休み取るの難しいのに。ストなんかしたらパニックだよ。

町子 明日も仕事？

仕事っていうか、取引先とゴルフ飲み会カラオケ？の、アテンド。なにアテンドって。

テツ 受付したり飲み会の幹事やったり？

テツはゴルフしないの？

町子 しないよ、興味ないし。

日曜なのにね。

バカ上司の命令なんだよ。「仕事取りたければゴルフ行って仲良くなって来い！」って。ゴルフ接待したくらいで仕事貰える程甘くないっーの。いつの時代の話してんだよ。あーあ。俺ももつとゆっくりしたかった。

町子 シヨウも帰って来てるんでしょう。こっち顔出さないの？

バンドのライブがあるんだってさ。仕事もろくにしないで、いつまでもほつき歩いてるんだか。これ、お土産。ベタだけど、マカダミアンナッツチョコレート。

町子 あら、ハイカラな食べ物。

こういうのしかなくてさ。食べられるかな。

町子 大丈夫。ありがとう。どうだった？クマオの結婚式。

良かったよ。クマ兄緊張で手、震えちゃってさ。指輪交換の時、

指輪落としてコロコロコロってバージンロードの端まで転がって  
いっちゃって。それ追いかける姿、もう傑作だったよ。あ、これそ  
の時の写真。

町子 あの子ってば昔からそういう大事な場面に弱いんだから。

マチコさんもマチコさんでさ、ブーケトスを力いっぱい投げてヤシ  
の木に引っ掛けちゃって。なんかもうある意味、スゲーお似合いっ  
て感じで。

町子 綺麗ねえ。

テツ こんなに綺麗な人が、まさか兄ちゃんの奥さんになるなんてね。

町子 同じ名前のマチコさん。

テツ ばーちゃんも一緒に行けたら良かったね。

町子 まさか階段で足滑らせちゃうなんてね。私もクマオのと言えない  
ね。

テツ でも元気そうで良かった。もつと落ち込んでるかと思つたよ。

町子 これでも結構落ち込んでるのよ。でも心強いわ。これからはテツが  
一緒に暮らしてくれるんだもの。

テツ うちの会社、転勤多いしき、いつまで一緒にいられるかは分からな  
いけど。

町子 足腰が立つうちは、洗濯とご飯の用意くらいはしてあげるからね。

テツ 既に立ってないじゃん。

町子 あらやだ、ほんと。情けないわあ。

テツ ねえばーちゃん、この庭に車停めさせてもらっていいかな。

町子 え？

テツ 車通勤しようと思つてさ。ここずっと使つてないし、眠らせ  
ておくくらいならいっそさ。草むしりとか俺やるし。

町子 だめよ。

テツ なんで。

町子 お父さんがまた使うかもしれないから…。

テツ え、親父？

町子 あんたのおじいさん。

テツ じいちゃんとは、とつくの昔に仏さんになったでしょう。

町子 え？ああ、そうだったそうだった…。

テツ …ばあちゃん？

町子 でもよしなさい。ここの土は柔らかいから、車が傷むわ。

テツ いいよどうせ中古の軽だし。

町子 だめ。

テツ じゃあ近くで駐車場探すかなあ。

町子 そうしてちょうだい。腐る程あるんだから。昔駄菓子屋さんがあつ

たところ、あそこがいいんじゃない。

テツ え、あそこなくなったの？

町子 何作つていいかわからないから、とりあえず駐車場はつかり作る

の。出て行った人は二度と戻つ来ないのに。

テツ そういう人たちを呼び戻すのも、僕の仕事だから。

町子 テツがここを選んでくれて、ばあちゃん嬉しい。

テツ 選んだというか、配属されただけなんだけどね。

町子 テツ、よしよししてあげよう。こっちおいで。

テツ え、いいよ。

町子 いいじゃないさせてよ。

町子 嫌だよ恥ずかしいよ。げ…バカ上司からだ。もしもし？(去る)

町子 町子は庭を見る。

瞬きを何回か繰り返す。

以前より視野が狭くなっている。

遠くでチカッと何かが光る。

町子は手を伸ばしてみる。

【4】

ロックな音楽

町子が目を凝らして見ると、ド派手な衣装に身を包み、エレキギターを肩に抱えた男（シヨウ）がやって来る。

シヨウ  
BA・CHANG!

町子  
どちら様?

シヨウ  
俺だよ、ORE ORE!

町子  
詐欺師ね!

シヨウ  
顔出してるじゃん。

町子  
その顔じゃ分らないわよ。

シヨウ  
SUN男★の、SHOW D A Y O!

町子  
シヨウなの?

シヨウは町子の膝に頭を置き、しくしくと泣く。

町子  
どうしたの?

シヨウ  
友達に裏切られたんだ。

町子  
裏切られた?

シヨウ  
ベースの青木とドラムの春山…。

町子  
青木君と春山君がどうしたの。

シヨウ  
バンド辞めるって。

町子  
プロになるって一緒に頑張ってたんじゃないかって。

シヨウ  
そうだよ。なのに今日のライブ、あいつらスーツで来やがった。

町子  
アオキとはるやまなだけにね。

シヨウ  
ライブの前に面接受けて来たって。就職するって。

町子  
それじゃあ、バンドは辞めちゃうの?

シヨウ  
青木は税理士、春山は公務員目指すんだって。遊びは終わりだっ

て。クソッ。あんな守りに入るやつだなんて思わなかった。

町子  
それを今日まで黙ってたっていうの。酷い話ね。

シヨウ  
しかも俺に説教するんだぜ。「目を覚ませ」とか。「いつまでも夢追

いかけないで現実見ろ」とか。

町子  
夢見たっていいじゃないまだ若いんだから。

シヨウ  
俺は、夢を現実にするまで諦めないから。

町子  
シヨウ…。

シヨウ  
俺、東京行くよ。

町子  
え…。

シヨウ  
プロになってあいつらを見返してやるんだ。ばあちゃん、応援して

くれる?

町子  
…。

シヨウ  
ばあちゃん、泣いてる?

町子  
いつもお兄ちゃんたちに泣かされてばかりだったシヨウが、こん

なに強い子に成長するなんてね。

シヨウ  
それじゃあ…。

町子  
応援しない訳ないじゃない。

シヨウ  
ありがとう。そう言ってくれるの、ばあちゃんだけだよ。

町子  
あんたが本気になって全力で取り組むことなら、おばあちゃん何だ

って協力するわ。

シヨウ  
本当に?

町子  
ええ。

シヨウ じゃあお言葉に甘えて…お金貸してくれない？

町子 お金？

シヨウ いや実はさ…。上京するのにお金がなくてさ。やっぱりこの道一本

で行こうと思っただらさ、今まで以上に練習しなきゃいけないしさ、

プロのレッスンも受けたいし。バイトばかりしてたらさ、何のた

めに東京行っただってなるわけで…。

いくら欲しいの？

(指で) これくらい…。

町子 分かったわ。

町子は財布からお金を取り出し、シヨウに渡す。

シヨウ いいの？

町子 あなたの人生のためだもの。

シヨウ プロになったら必ず返すから。

町子 私が生きてたらね。

シヨウ 馬鹿言ワナイデクレYO！絶対コン☆ミサートにSHOW-TA

I スルカラSA!

町子 ありがとう。シヨウ、こっちおいで。

シヨウ え。

町子 いいからおいで。よしよししてあげる。

シヨウ う、うん…。

町子、シヨウに「よしよし」する。

町子 頑張るのよ。

シヨウ うん。

テツ シヨウ来てるの？

シヨウ わっ。(お金を隠す)

テツ 何しに来たの？

オ、オウ。チョット顔見にナ…。

ライブ終わったの。

オウ。

ならゆっくりしていけばいいのに。

いや、明日も練習アルし、帰るYO。

そう…。

BA-CHANGも、また今度ね。(去る)

頑張るのよ。

…シヨウ、何て。

東京行くんだって。プロのギタリストになるって。偉いわよねえ。

…ばあちゃん、もしかしてお金渡した？

東京でお金があるっていうし、少しだけね。ばあちゃんだめだわ

あ。こんな時何もしてやれないんだもん。

いくら渡したの。

いやだ、テツも欲しいの？お小遣い。あなたしつかり働いてるじゃ

ない。

婆ちゃん、財布出して。

はい…。

やっぱり…。ばあちゃん、これこの間もあつたよね。

え…？

前にも同じこと言われて、お金渡してたよね。

あれーそうだったかしら。

ほら、明らかにお金減ってるでしょう。

本当。いやあねえ最近すぐ忘れちゃうのよ。

テツ ばあちゃん…。

町子 テツ、ばあちゃんがボケたら遠慮なく言ってね。家族には絶対迷惑掛けないようにするから。私決めてるのよ。ボケたらだれにも悟られないように、ひっそりといなくなるって。

テツ そんなこと言わないでよ。

町子 私みたいな役立たずがいつまでも生きてたつてしょうがないんだから。

この言葉をきっかけに、町子は突然家からいなくなったり深夜に街を徘徊したりすることが増える。

テツ ばあちゃん！ばあちゃん！

町子 テツ。

テツ どこ行ってたんだよ。探したんだから。ほら、一緒にお家に帰ろう。

町子 テツ、あそこ見て。あかつき。

テツ 何？

町子 ほらあそこ。あかつきが成ってる。

テツ 違うよ。あれはお月様。

町子 あんなにも光り輝いているのに、周りはいれを汚いって言うのよ。え？

町子 だから私が証明してあげるの。大丈夫って。

車椅子に乗っていることを忘れて立ち上り、転げながら月に向かって手を伸ばす。

テツ ばあちゃん！

その手を口に運び、存在しない桃を食べ続ける。

【5】

クマオがやって来る。

紙袋の中からケーキの箱を取り出して、ローテーブルの上に置く。

テツ どうしたの、これ。

クマオ 桃のロールケーキだ。

テツ 桃のロールケーキ？

クマオ 段階を踏んで練習しようと思うんだ。まずは調理済みのもの。それがクリア出来たら、生に挑戦する。

テツ どういう風の吹き回し？

クマオとマチコの部屋。

マチコは何かに取り憑かれたように桃をしゃぶる。

クマオ どういうことなんだ。

マチコ あら、あなた。

クマオ マチコ、それは。

マチコ 美味しい桃よ。

クマオ 俺のことが嫌いになったの？

マチコ どうして？

クマオ 俺が桃のこと嫌いなもの知ってるよね。

マチコ ええ、でも最近、食わずにはいらなくなってる。

クマオ あの日言ったよね。「この人、私がいないとダメだから」って。  
マチコ 随分昔の話を持ち出すのね。そうよあの時あなたったら桃が食べられなくてひっくり返ったのよね。

クマオ つまりそれって「それでもあなたを好きでいます」って事だよな。  
マチコ まあ…そうかな…

クマオ それでうちにお嫁に来てくれたってことはもう、桃が食べられなくてもいいってことだろう？

マチコ うーん、その時はそう思ったかも。  
クマオ 裏切りじゃん！

マチコ 気持ちの変化なんて誰にでもあるわよ。  
クマオ マチコはさ、俺と桃、どっちが大事なの…。

マチコ 今は…桃のない生活なんて耐えられない。  
クマオ 俺も、桃ばっかりの生活なんて耐えられない。

マチコ どこ行くの！  
クマオ 暫く帰らない。

マチコ 待って！大事な話があるの。実は私…。  
クマオ 近付かないでくれ！

マチコ 私、赤ちゃんが出来たの。(桃をしゃぶる)  
クマオ えっ。

マチコ 赤ちゃんが、出来たのー！！(桃をしゃぶる)  
クマオ やめてくれ！これ以上近付かないでくれー！！

クマオ、走り去る。

テツ だっさ…。

クマオ そう言うなよ。  
テツ それで逃げて来たんだ。

クマオ いや、俺はもう逃げる訳にはいかないんだ。善良な父親になるために、俺は桃嫌いを克服する！  
テツ おめでとう。

クマオ そんな訳で、暫く世話になるぞ。  
テツ ええっ。

クマオ 桃が食べられるようになるまで、俺、帰らないから。  
テツ 自分の家でやれよ。

クマオ これ以上マチコに無様な姿は見せられないよ。  
テツ 仕事どうすんの。

クマオ 送迎ヨロシク。  
テツ ムリムリムリムリ！どれだけ離れてると思ってるの。

クマオ お兄ちゃんだぞ！  
テツ もうそんなの通用しないぞ。

クマオ よし、行くぞ…。  
テツ クマ兄頑張り！

クマオ ほら、お前も。  
テツ え、俺も？

クマオ 明日は我が身だぞ。  
テツ …うん。

クマオとテツ、ロールケーキを一口分、口に運ぶ。

クマオ ハアハアハアハア…。

テツ お水飲む？  
クマオ ああ、すまない。

クマオ、水を飲む。

クマオ なんて桃なんだろうな。

テツ 悪阻のこと？

クマオ 普通酸っぱいものって言うじゃん。

テツ 生命の不思議だね。

クマオ 父親になるのかあ。

テツ うん。

クマオ なれるのかなあ。

テツ なれるよ。頑張ろうよ。

クマオ そうだ婆ちゃんにも顔出しておかないとな。

テツ 婆ちゃん、寝てるよ。

クマオ まだこんな時間なのに。

テツ 最近眠ったり、ぼんやりしたりする時間が増えてき。

クマオ お前それって。

テツ …うん。

クマオ 父さん母さんには言った？

テツ うん。でもまあ、母さんそこまで手え回らないし。

クマオ 父さんは？

テツ 今度休み取って帰るとは言ってくれてるけど…。

クマオ お前がいるからとりあえず任せたってところなんだな。

テツ 今は特に困ったことはないからいいんだけど…いやあるか。困った

クマオ 奴がもう一人。

クマオ え…。

ロックな音楽

ド派手な衣装に身を包み、エレキギターを抱えた男がやって来る。

またもや三男、シヨウである。

シヨウ ばあちゃん。

クマオ シヨウ。

テツ シッ…。

クマオ え？

テツ とりあえずコレに座って。ばあちゃんのフリして。

クマオ え、でも…。

テツ いいから！

クマオは町子のフリをする。

テツは隠れて町子の声真似をする。

シヨウ BA・CHANG!

テツ どちら様？

シヨウ 俺だよ、OREORE!

テツ 詐欺師ね!

シヨウ 顔出してるじゃん。

テツ その顔じゃ分からないわよ。

シヨウ SUN男★の、SHOWダYO!

テツ シヨウなの？

シヨウはクマオ扮する町子の膝に頭を置き、しくしくと泣く。

クマオ なんだなんだ。

テツ 続けて…どうしたの？

シヨウ 友達に裏切られたんだ。

テツ 裏切られた？

ショウ ベースの青木とドラムの春山…。

テツ 青木君と春山君がどうしたの。

ショウ バンド辞めるって。

テツ プロになるって一緒に頑張ってたんじゃないかって。

ショウ そうだよ。なのに今日のライブ、あいつらスーツで来やがった。

クマオ AOKIとはるやまなだけに！

テツ うん。

ショウ ライブの前に面接受けて来たって。就職するって。

テツ それじゃあ、バンドは辞めちゃうの？

ショウ 青木は税理士、春山は公務員目指すんだって。遊びは終わりだっ

テツ て。クソッ。あんな守りに入るやつだなんて思わなかった。

テツ それを今日まで黙ってたっていうの。酷い話ね。

ショウ 俺、東京行くよ。

テツ え…。

ショウ プロになってあいつらを見返してやるんだ。ばあちゃん、応援して

テツ くれる？

テツ …応援しない訳じゃない。

ショウ ありがとう。そう言うってくれるの、ばあちゃんだけだよ。

テツ あんたが本気になって全力で取り組むことなら、おばあちゃん何だ

テツ って協力するわ。

ショウ じゃあお言葉に甘えて…お金貸してくれない？

クマオ お金！？

ショウ いや実はさ…。上京するのにお金がなくてさ。やっぱりの道一本

で行こうと思ったらさ、今まで以上に練習しなきゃいけないし、

プロのレッスンも受けないし。バイトばかりしてたらさ、何のた

めに東京行っただってなるわけで…。

ショウ (指で) これくらい…。

テツ 分かったわ。

テツ テツは財布からお金を取り出し、ショウに渡す。

ショウ プロになったら必ず返すから。

テツ 今だっ！

クマオ ぐはははは。そいつは楽しみだあねええええええ！

ショウ クマ兄！

テツ ショウ、こっちおいで。よしよし…いや、ボコボコにしてあげる。

ショウ テツ兄！

クマオ・テツは、ショウを捕まえる。

クマオ お前何やってんだよ。

ショウ だって…。

クマオ ばあちゃんのこと、知っててやっただろう。

テツ れっきとした詐欺だぞ。

クマオ ちゃんと返すつもりだよ。

ショウ 金が必要なら父さんか母さんに言えよ。

テツ 勘当されたんだ。言える訳ねーよ。

ショウ それでここに来るやつがあるかよ。

テツ だってばあちゃん、涙を流して喜んでくれるんだ。ばあちゃんだけ

だよ。

クマオ …お前さあ、いい加減、就職しろって。

ショウ クマ兄もそれ言う？一度きりの人生、好きなことやって何が悪いん

だよ。

クマオ …お前さあ、いい加減、就職しろって。

ショウ クマ兄もそれ言う？一度きりの人生、好きなことやって何が悪いん

だよ。



テツ 悪いとは言わないけどさ…。

クマオ 悪いに決まってるだろう。いい歳していつまでもくだらない夢なんか追いかけて。

シヨウ 「なんか」って言ったな。今、「夢なんか」って言っただろう。

クマオ ああ言ったさ。枕詞に「くだらない」も付けてな。

シヨウ ぬううううううううううう。

テツ 二人とも落ち着こう。

シヨウ 俺は、兄ちゃんたちとは違うんだよ。

クマオ 自分だけが特別って思ってるんじゃないぞ。

シヨウ 特別なのは兄ちゃんの方だろう。

クマオ 何だって。

シヨウ 俺兄ちゃんみたいに頭良くないし、器用にやりくり出来ないからさ。どこに行っても邪魔者で、誰にも必要とされなくて。信じられるのはコイツ（ギター）だけなんだよ。

思春期引き摺ってんじゃねえよ。

クマオ 人生で唯一頑張れるのが、ギターなんだ。

シヨウ ショウ。

クマオ お前甘いよ。本質が変わらなきゃどこに行っても同じだ。普通の事が頑張れないお前に、特別なことは出来っこないんだよ。

テツ クマ兄ちよっと…。

クマオ これまでの人生、努力が足りなかったんだよ。

シヨウ じゃあ俺は、どうやって幸せになればいいんだー！

クマオ とシヨウ、掴み合いのケンカになる。

桃のケーキが床に転がる。

クマオ ・シヨウ あつ。

クマオ 俺のロールケーキ…。

シヨウ 食えよ。

クマオ えっ。

シヨウ 食いたくて買ったんだろう。ほら。

クマオ よせよ…心の準備してもんが必要なんだよ。

シヨウ あれえ？頑張り屋のお兄ちゃんが桃ごときで取り乱しますかあ？これまでの人生、努力が足りなかったんじゃないですかねー。

クマオ 俺は、いつだって本気なんだよー！

テツ やめろって。こんなことで喧嘩するのやめようよ！

クマオ お前はいつもそうやって両方でもいい顔するんだ！

テツ はあ？

シヨウ そうだそうだ！八方美人！

テツ 真ん中なりに気を遣ってるんだよ！それぐらい分かれよバカ！

三人、取っ組み合いの喧嘩になる。

声を聞きつけて、町子が部屋から出て来る。

町子 テツ、どうしたの？

クマオ ・シヨウ あ…。

町子 誰か来てるの？

クマオ え、僕だよ。クマオ。

シヨウ ショウだよ。

町子 クマオとシヨウが来てるの？

テツ ばあちゃんに会いに来てくれたんだよ。

町子 ありがとうねー。

クマオ テツ…。

テツ (頷く)

町子 何か匂いがする…ケーキ？  
テツ しまった。  
町子 桃のロールケーキね。

町子、ケーキを素手で掴み、美味しそうに食べる。

町子 あー美味しい。  
クマオ ばあちゃん。  
町子 クマオ、こっちいらつしやい。  
クマオ え…。

町子は再びケーキを手で掴み、クマオの口に入れようとする。

クマオ ばあちゃんちよつと待ってよ。  
町子 食べられないの？  
クマオ みんな桃が嫌いじゃないか。  
町子 みんな、桃が、嫌い？  
クマオ そう、みんな。な、テツ。  
テツ え…。  
町子 テツ、いらつしやい。

町子はケーキをテツの口に入れる。

町子 テツ、美味しい？  
テツ …美味しいよ、ばあちゃん。  
町子 そうでしょう。これは少しも汚れてなんかない、きれいで、安全な桃

なのよ。

テツ うん…。

町子 「うん」じゃない。「きれいで安全な桃」って言いなさい。

テツ きれいで、安全な桃です。

町子 もっと大きな声で！世間様に聞こえるように！

テツ これは、きれいで、安全な桃です！これは、きれいで、安全な桃です！

町子 おりこうさん。よしよししてあげる。シヨウも食べる？  
シヨウ うん…。

町子 シヨウは桃が大好きだもんねー。

シヨウ これは、きれいで、安全な桃だから…。

町子 そうよ正解！よしよししてあげましょう。

クマオ なんだよこれ。俺が桃を嫌いなのは、ばあちゃんが嫌っていたからなんだよ。

町子 桃のケーキも食べられない子は、うちの孫じゃありません。鬼じゃ。

クマオ 悪魔じゃ。鬼ヶ島で退治されるといいわ。

クマオ ばあちゃん、どうしちゃったんだよ。くそう。

クマオもロールケーキを食べようとする。

クマオ だめだ、スポンジが限界だ…。

クマオの意識が遠のいていく。

暗転

テツ　クマ兄、クマ兄。

クマオ　うん…？

テツ　ばあちゃんがなくなった。

クマオ　えっ。

シヨウ　どこ行っちゃったんだろう。

クマオ　とりあえず、母さんたちに電話。

テツ　うん…。だめだ繋がらない。

シヨウ　こんな時に限って…。

テツ　とりあえず近所探してみよう。クマ兄は、とりあえずマチコさんにも連絡を…。

クマオ　うん…。

テツとシヨウ、去る。

☆

マチコがやって来る。

マチコ　クマオくん。

クマオ　わっ。マチコ、どうしてここに？

マチコ　ちよつと、おばあちゃんの容態が気になって。

クマオ　えっ？

マチコ　骨折だったら、やっぱり飛行機は難しそうかな？

クマオ　何の話？

マチコ　結婚式に決まってるじゃない。

テツ・シヨウ　えっ？

クマオ　結婚式は大分前に済んだじゃないか。

マチコ　何寝ぼけたこと言ってるのよ。出発は明日なのよ。

クマオ　マチコ、お前悪阻が酷くてちよつと変になってるんじゃないか？

マチコ　何よ悪阻って。

クマオ　その…赤ちゃん…。

マチコ　まるで私が妊娠してるみたいな言い方ね。

クマオ　実際そうじゃないか。

マチコ　私、そんなに太ってる？

クマオ　ええっ。

マチコ　ドレスのために、結構ダイエットしたのよ。

クマオ　赤ちゃんがいるのにダイエットは駄目だよ。

マチコ　何よ赤ちゃんって。デブならデブって、はっきり言えばいいじゃない。(腹筋を始める)

クマオ　何してるんだよ。

マチコ　クビレ作ってるの。

クマオ　駄目だって。

マチコ　じゃあもう式まで何も食べない。今朝食べたものも、全部吐いてやる。

マチコ、トイレに駆け込む。

クマオ　マチコ、今はお腹の赤ちゃんのことだけを考えてくれ！マチコ！

☆

クマオ、トイレのドアを開ける。

クマオ　あれ…消えた…。

テツとシヨウは近所を探し回っている。

シヨウ ばあちゃん！町子ばあちゃん！

テツ ばあちゃん！

シヨウ あつ。

テツ いた？

シヨウは河川敷に降りて行く。

シヨウ ホットキヤットプレスだー！

テツ ホットキヤットプレス？

シヨウ 懐かしいなあ。今でもやっぱりこういうところに落ちてるんだね。

：うわあひまわりちゃん。やっぱりこの頃は可愛いなあ。

テツ なんでこんなものが落ちてるんだろう。

シヨウ 何で？

テツ かなり昔のдар、それ。

シヨウ ひまわりちゃんこの間結婚したじゃん。IT会社の社長と。だから

きつとファンが怒って捨てたんだよ。

テツ そうなのかなあ。

シヨウ これ持って帰ろう。クマ兄にお宝発見って見せてやろう。

テツ おい、ばあちゃん探しに来てるんだぞ。

シヨウ へいへい。

二人、再び町子を探す。

テツ あれつ。

シヨウ 何？

テツ 迷ったかも…。

シヨウ もーう、この辺は庭みたいなものでしょう。

テツ そうなんだけど、あれ…。

シヨウ テツ兄も変になっちゃったってことないよね。

テツ 変じゃない？

シヨウ ええつ。

テツ いや街並みが…。

シヨウ どころが？

テツ どころがって言われると…。

シヨウ この街は全然変わらないね。

テツ えつ。

シヨウ この駄菓子屋も文房具屋も、昔からずっとあるよ。

テツ え…。

シヨウ 昔ここでかき氷食べたよね。

テツ どういうことなんだ？

シヨウ 何が？

テツ 駄菓子屋も文房具屋も、「今」はないんだよ。

シヨウ え…。

テツ 「今」ここは駐車場になってる…。

シヨウ あつ。ばあちゃん！

テツ どこ！？

シヨウ あそこの八百屋さん。おい！ばあちゃん！

町子 テツ、シヨウ。

シヨウ ばあちゃん探したんだよ。さあ、帰ろう。

町子 あれ、ここ、空き地…？

テツ ばあちゃん何か変なんだ。本当は今ここには、スーパーが建設中の

はず。

町子 あちゃん。

テツ えっ？

町子 間違えた。ここじゃないわ。

町子、走っていなくなる。

シヨウ ばあちゃん！

テツ ちよつと！足、速くない？

二人も後から追いかける。

☆

町子の家。

クマオ どういうことなんだ…。

テツ クマ兄！

シヨウ お宝発見したよ！…あれ！？ない…。

クマオ テツ、シヨウ…。

テツ マチコさんは？

クマオ さっきここに来てそれで…消えた。

テツ・シヨウ 消えた？

クマオ 何かおかしいよ…。

壁や窓は折り紙で作られたチェーンと画用紙で

「お誕生日おめでとう」と書かれた装飾が施されている。

シヨウ 僕の誕生日…。

テツ 昔、ここで誕生日会したね。

シヨウ うん。

テツ 桃のロールケーキ買ってきて、シヨウがお尻叩かれたんだよ。

クマオ 「昔」な…。

町子がやって来る。

町子 シヨウちゃん、ケーキ買って来たの？

シヨウ ばあちゃん…。

町子 どんなケーキ買ったの。おばあちゃんに見せて。

町子はテーブルに置かれたロールケーキを見る。

町子 また間違えたー。

シヨウ えっ。

町子 シヨウ、ごめんね。

町子は走っていなくなる。

シヨウ ばあちゃん！

☆

引越しの荷物と共に、車の中にいるクマオとテツ。

クマオ あれ、ここどこだ…車…？テツ！シヨウ！

クマオの腕の中から笑い声が聞こえる。

クマオ わあ！え、誰これ…テツ？

テツ (ニッコリする)

クマオ 赤ちゃんまで戻っちゃった。てことはショウは…？

車の外で、町子が手を振っている。

おじいちゃん(ショウ) クマオ、テツ、元気だな。

クマオ おじいちゃん…。

町子 こっちにはもう呼んであげられないかもしれないけど、弟が生まれ  
たらじいちゃんとおばあちゃん、飛んで会いに行くからね。

おじいちゃん 父さんと母さんの言う事、しっかり聞くんだぞ。

町子 兄弟三人、仲良く暮らすのよ。

お父さん(テツ) (赤ちゃんをチャイルドシートに乗せて) さあクマオ、行く  
ぞ。

クマオ どこへ？

お父さん お母さんのとこだよ。

お父さんも運転席に乗り込む。

お父さん クマオ。向こうに行っても、この街に住んでた事は誰にも言うんじ  
やないぞ。

クマオ え…。

お父さん おじいちゃんとおばあちゃんが、ここで桃を作っていたこともだ。

クマオ どうして？

お父さん 「あかつき」のことは忘れるんだ。家族みんな、桃は嫌いになったん  
だ。いいな。

クマオはこっそりテツを連れて車から降りる。

お父さん よし、行くぞ！(去る)

町子・おじいちゃん 元気でねー！ばいばい！

町子は段ボールを片付ける。

おじいちゃん また返品か？

町子 ええ。作っても作っても、捨ててばかり…。放射線の基準値はクリ

アしているのに、まるで殺人兵器みたいな言い方されて。

おじいちゃん あの時の事故が、全てを狂わせてしまった。

町子 水も土も、木の根っこも、ゼーンぶ調べてもらって、何も問題なかつ  
た。このあかつきも見てほら。赤くて、美しく、瑞々しくて、傷ひ

とつない。でも、一度ブランドのイメージに傷がつくと、もう取り返

しがつかない。

おじいちゃん 町子。もう、桃を作るの、やめようか。

町子 えっ？

おじいちゃん クマオやテツも遠くに行ってしまったし、もう、気力も湧かな  
くなってしまうた。

町子 あの子どもたちにとっては、この名前が出るだけでもマイナスですし  
ね。

おじいちゃん 大人になって、このことが影響して結婚に影響が出たら可哀想  
だしなあ。

町子 なかったことにするんですか。

おじいちゃん もう、それでもいいんじゃないか。なあ町子。

おじいちゃん、チェーンソーを持って来る。

町子 え、今ですか…。

おじいちゃん 決めたことはいつまでも引きずらない方がいい。わしらも、いつまで生きられるかは分からないんだから。

暗転

町子 私たちが死んだときにまだ残ってたら、みんなが迷惑しますもんね。

おじいちゃん ごめんなあ…ごめんなあ…。(電源を入れる)

クマオ おばあちゃん！

町子 (手を叩いて) ここよ！

クマオ え…。

町子 私、ここで挫けてしまった…。もしここで諦めなければ、「今」はも

っと変わっていたの。あの子たちをもっとたくさん抱き締めて、あ

かつきの甘さを、愛を、伝えることが出来たの。

おじいちゃん ごめんなあ！

桃の木が、次から次へと切り落とされていく。

町子 ここで私、諦めたのがいけなかった…。私が、悪い。私が、全てを間

違えた…。

町子、おじいちゃんを止めようとする。

クマオ

町子

クマオ

テツ

シヨウ

町子

クマオ

町子

クマオ

町子

クマオ

テツ

終わった？

クマオ

…ああ。なんとも微妙な感じだったよ。

テツ

向こうもクマ兄のこと覚えてないんでしょう。

クマオ

いかにも無理矢理連れて来られましたって感じで。

テツ

そりゃあそうだよ。三歳くらいの時の話でしょう。急に同級生って

言われてもねえ。

クマオ

たまたまこつちに帰って来てたんだって。今は大阪に住んでるらしい。

テツ

父さんと母さんは。

クマオ

まだ外で話し込んでる。あつちはまだ積る話があるみたいだよ。

テツ

そう。

クマオ

…信じられないよね。

テツ

うん。

クマオ

最後は目もほとんど見えてなかったって。

テツ

緑内障もかなり進んでたらしいね。

クマオ

それであんなに動き回ってたなんて。言ってくればもっと早く対処できたのに。

テツ

きつと、見えないことも、分からなくなってたんだと思う。

クマオ

結構進んでたんだな。

テツ

俺がもっと早くに気付けば良かったんだ。

クマオ

テツ、そういう話はよそう。

テツ

ごめん…。

テツ

良かった…。

【7】

クマオ ショウ、お前も大丈夫か？

ショウ お金、返せなかった…。

クマオ 仕方ないよ。

ショウ 必ず返すって約束したんだ。

クマオ ばあちゃん分かってくれるって。

ショウ もうばあちゃんの記憶の中から消えてしまったんだよ。

テツ そんなことないよ。

ショウ え…。

テツ 認知症ってき、脳がスポンジみたいになっていって、新しい記憶から順番に失われていくって言うじゃん。

ショウ うん。

テツ だから最初はマチコさん、その次がショウ。その次が俺。これは仕方

ショウ ないことなんだ。

テツ 分かっているんだけど、ショックだった。

ショウ ロールケーキに似てるよね。

テツ 外側のスポンジから食べるような？

クマオ そう。

クマオ それ俺だ。

テツ 外側のスポンジから食べていって、ばあちゃんの記憶がどんどん消

ショウ えていっても…。

クマオ うん…。

テツ 最後、真ん中に、桃が残るじゃん。

クマオ ショウ あ…。

テツ ばあちゃんにとつての桃って、それはきつと…。

マチコ ああ！

クマオ ショウ わつ。

マチコ 桃、食べませんか？

クマオ ショウ、お前…。

マチコ 今、ここで。桃、食べませんか。

クマオ マチコどうした。

テツ そんな急に言われても…。

ショウ 桃ないし…。

マチコ 大丈夫です。私今、桃、持ってます。

ショウ なんで!?

テツ 悪阻のせいかな、桃欲が止まらなくて。

クマオ 桃欲って…。

クマオ マチコ、お前…。

クマオ あなたも食べるのよ。

クマオ 無理だよ…。

クマオ おばあちゃんが育てていた「あかつき」よ。

クマオ えっ…。

クマオ 結婚式の前日、こっそり私を呼び出して「これを私の代わりに…」っ

クマオ て、種を…。桃栗三年って言うけど、本当なのね。やっとな、実を付け

クマオ た。

クマオ マチコ、それ、どこで…。

クマオ あなた桃が全く駄目なの分かってたから、実家で。おばあち

クマオ ゃんほど上手じゃないけど。甘くて、おいしいのよ。

クマオ …。

クマオ あ、今ちよつと動いたかも。きつとお腹のべぢちゃんも食べたいの

クマオ よ。ねー。

クマオ うう…。

クマオ 兄ちゃん、食べよう。

クマオ パパ。



クマオ、「あかつき」を手取る。

クマオ　ばあちゃん…。

クマオ、思い切って桃を齧る。

クマオ　美味い…。

テツ・シヨウ・マチコも後に続く。

町子の顔を見ながら。

泣きながら、笑いながら。

#### 【終わり】

#### 【上演記録】

二〇一七年十一月 兵庫県立神戸高等学校演劇部により上演

#### 【本作品の転載・上演について】

本作品を無断で転載・上演することをお断りしております。  
左記連絡先までお問い合わせください。

#### 【お問い合わせ】

プラズマみかん 中嶋 悠紀子

plasmamikan@yahoo.co.jp

※引用 Ⅱ 「亜麻色の髪の乙女」 橋本淳作詞 はしもとこういち作曲